

谷口家文書目錄
(和歌山市冬野)

目次

解題

1 伝来と受け入れの経緯	26
2 冬野地区について	26
3 谷口家について	27
4 唯称庵と徳本について	27
5 文書群の概要と整理について	27
6 目録上の項目編成について	28
7 参考文献	28

目録

一、唯称庵文書	
① 文書 宗教・その他	29
② 絵画 宗教・その他	30
③ 典籍 宗教	31
二、谷口家文書	
① 典籍	32

谷口家文書解題

1 伝来と受け入れの経緯

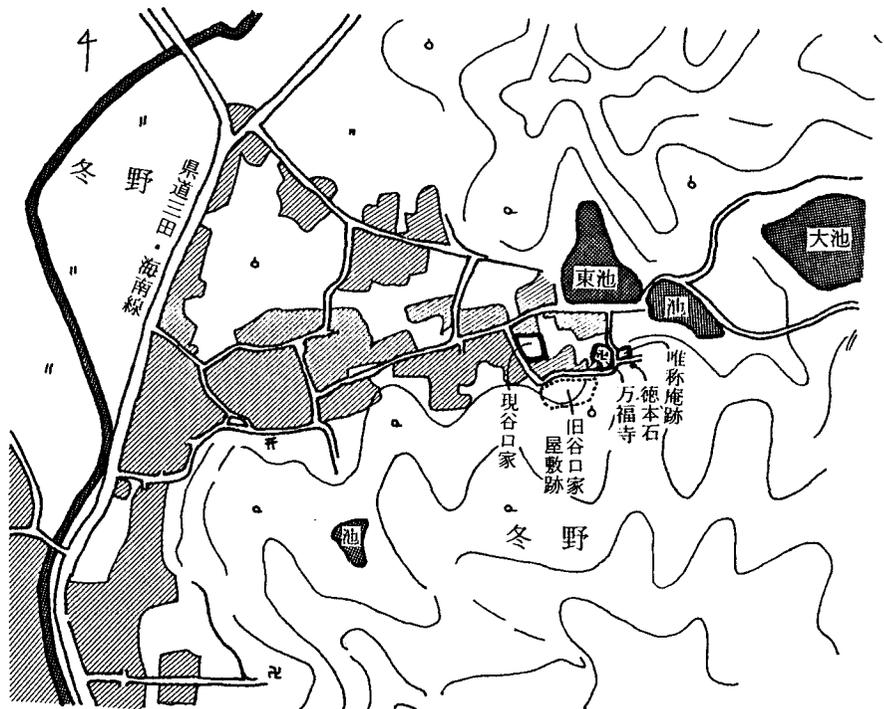
谷口家文書は、和歌山市冬野在住の谷口匡氏所蔵文書五五五点の総称である。

谷口家は、近代以前より現在と同じく旧紀伊国名草郡冬野村に所在し、村の庄屋を勤めたこともある。しかし明治三〇年代に故有って地所建物のほとんどを売却して、一時大阪へ転居された。その時、家に伝わる古文書類も全て処分されたと考えられ、現存していない。現在谷口家文書としてあるのは、当家が近世後期より所有していた庵に什物として伝来した宗教関係の典籍・絵画・文書と、転居後も所持されていた明治期の教科書類である。

受け入れについては、谷口氏が保存環境の整った本館での保存を希望され、まず平成六（一九九四）年一〇月に典籍以外の文書二八点の寄託を受けた。その後同年十一月に典籍二七点の追加寄託をうけた。

2 冬野地区について

冬野地区は和歌山市南部に位置し、名草山の東側亀の川右岸に位置し、南東に本渡、東北に朝日、北西に広原の各地区があり、海南市との境界にも比較的近い。旧名草郡に属し中世には和田（太）荘の内の冬野郷、近世から明治二二（一八八九）年までは冬野村と称した。明治以前は和歌山藩領で、吉原組に所属した。『旧高旧領取調帳』によると村高一八八石余、『紀伊統風土記』（天保一〇〔一八三九〕年編）によると家数二二六軒・人口五二四人。その後明治四（一八七二）年和歌山県に所属、明治五年の大区小区制時は第一大区八小区、明治



冬野地区略図

一二年には吉原村広原村との三村組合に戸長が置かれ、同二年町村制施行により安原村（はじめ名草郡のち海草郡）の一大字となる。昭和三一（一九五六）年和歌山市に編入され、和歌山市の一地区として現在に至る。

3 谷口家について

旧谷口家屋敷地は地区内の東山際に位置し、相当広い敷地を有していた。現在の谷口家は昔当家が借家を持っていた場所にある。村庄屋を勤めた事もあり、また文政期（一八一八—一八三〇年）には当主の弟谷口屋次兵衛が手広く商売をしていたという。安政三（一八五六）年・文久元（一八六一）年の文書（『和歌山市史』六巻所収 宮本家文書）に登場する冬野村頭百姓惣代徳左衛門は当時の谷口家当主と考えられる。しかし全く当家の経営や村政に関する文書が家にも地区にも残っていないため、これ以上のことがわからないのが残念である。

4 唯称庵と徳本について

旧谷口家の北東すぐの所に浄土宗万福寺がある。その寺の東側一段高くなった土地を、当家は現在も所有しているが、以前そこには唯称庵（または谷口庵）という庵があり（地図参照）、この谷口家文書の多くが庵に伝わる什物であった。この庵は近世後期に当主谷口徳左衛門が子弟のために建てたということである。しかし建立年ははっきりわからない。ただ、当家に伝わる位牌には、「光普覚月映眞法尼 万延元申（一八六〇）三月廿四日 開祖、寶普珠光眞妙法尼 嘉永五子（一八五二）四月七日 二世」とあるので、これよりおおよそその建立年代は類推できる。

唯称庵を知るもう一つの手がかりに、浄土宗僧で念仏の行者と称された徳本上人とのかかわりが有る。徳本は、宝暦八（一七五八）年に紀伊国日高郡志賀谷久志村に生まれ、天明四（一七八四）年得度、その後念仏修行を重ね、やがて全国各地を遊行し民衆を教化した。紀州では寛政一二年・文化九年に藩主重倫・治宝に庵を賜ったが、文化一（一八一四）年江戸小石川一行院の再興時推されて中興開山となっ

た。文政元（一八一八）年一〇月六日一行院で没す。彼が当時の浄土宗布教教化に果たした役割は大きく、今もその特徴ある独特の筆跡を刻んだ名号石（六字名号を彫る）は全国に一〇〇〇基近くある。家伝によると、徳本はたびたび唯称庵を訪れ逗留したという。それを裏付けるように、文書中には徳本筆の「六字名号」（文書31）が残っている。また、庵跡地の向かいには、前述した徳本の名号石が建立されている（口絵1）。また、庵に隣接する万福寺の墓地には、やはり徳本の筆跡を刻んだ僧侶の墓石がある（現在は墓地の整理により無縁墓石の中にある）。徳本がたびたびこの庵（またはこの地）を訪れたということは、先の位牌から考えられる年代より以前の事になる。唯称庵建立以前にも、この地には当家の庵や持仏堂などが有ったのであろう。唯称庵は当家の転出後も現地に残り、昭和初期に当家がこの地へ帰ってきた時に移築され、現在も谷口家の仏間として利用されている。また、本尊の阿弥陀三尊像も同所に伝えられている。なお庵跡地には、当時の土塀の一部が今も残っている。

5 文書群の概要と整理について

この文書群は、大きく分けて宗教関係とその他・明治期に使用された教科書類（漢籍含む）に分けられる。しかし受け入れが形態により二度に分かれたため、整理は受け入れ順、すなわち形態別におこなった。初めに受け入れた文書類は全て卷子・掛軸で、六字名号や一枚起請文、釈迦三尊像図や来迎図など宗教関係のもの・特に絵画が多い。二度目に受け入れた文書は典籍で、「往生要集」や「阿弥陀経和訓図会」など近世に出版された仏教関係の版本と、明治期の中学校などの教科書類（当時勉強のためあるいは教科書として使われた論語等の漢籍本も含む）である。軸装されたものは、全体的に状態が悪く、破損

やしみの見られるものが多い。また、彩色がほどこざれているものの中には、剝落がはじまっているものもあり、整理時の取り扱いは慎重におこなった。

6 目録上の項目編成について

まず、伝来によって唯称庵に伝わった文書と谷口家に伝わった文書に分け、以下の通り項目編成をした。

一、唯称庵文書

①文書

宗教関係 九点。一枚起請文・徳本上人の安心起行などと、便宜上「六字名号」・神符など文字中心の史料もここに入れた。全て軸装。

その他

三点。和歌・俳句関係文書と短冊。共に軸装。この内文書34は俳句について安永四年に没した俳人加賀千代の句などをとりあげて、若州小松原一宮龍道が紀州に来た時に書いた文書であるが、この龍道なる人物は文書47にも「心蓮社聖徳若州大濱領小松原大光山僧實譽龍道」という名で登場する。谷口氏もこの文書の成立と人物について関心を持っておられるが、若州小松原に大光山という山号の寺は存在せず、また遠敷郡竜前村にある若狭一宮の若狭彦神社と龍道の関係、心蓮社についても残念ながらわからない。

②絵画

宗教関係 一三点。仏画や法然上人・徳本上人など僧侶の絵画が多いが、他に神仏習合的な絵画（文書40の「兩宝童子像図」など）もある。

その他 四点。

③典籍 一二点。全て版本で、天保期に出版された「往生要集」・「阿弥陀経和訓図会」、弘化二年出版の「釈迦御一代記図会」である。

二、谷口家文書

①典籍 一三冊。これらは主に教科書として利用されたようである。この内漢籍の四書が九冊あり、内一冊には現当主の父幸太郎氏の名前と（県立徳義中学校の）学年が書かれている。また一冊は「表題徐状補蒙求卷上」で、漢文の四字句に注釈を加えた本である。「四聲音訓」は辞書。漢文以外の教科書の内修身と国語の二冊の持ち主中井徳蔵とは、幸太郎の同窓のいとこである。

7 参考文献

『和歌山市史 六巻』（平成元年三月 和歌山市）には、安政三年・文久二年の冬野村庄屋不束之品につき村方出入があったことに関する史料が収録されている。

「徳本と原町一行院について」（『大正大学研究紀要 六十二』昭和五一年 大正大学出版部）

※ 本目録作成にあたり平成七年一〇月に現地聞き取り調査を実施し、谷口匡氏ご夫妻に御協力いただいた。また、宗教画の一部題材について草加市史編纂室の伊藤然氏に御教示いただいた。文書整理・現地調査・目録作成は鎌田和栄がおこなった。

一、唯称庵文書

①文書

34	38	44	47	43	48	31	33	28	32	51	利用番号
〔加賀千代女龍道上人俳句二付文書〕	〔年賀席祝講短冊掛軸〕 ※端裏「柳短冊」、開軸注意	鹽竈神社御神符（無彩色） ※垂迹神図有り、木版	〔天照皇大神宮・八幡大菩薩・春日大明神軸〕 ※虫損	〔六字名号・僧侶像図〕（彩色）	安心起行（形見として） ※六字名号、手形有り、木版	〔六字名号〕 ※破損、口絵2	〔六字名号〕 ※端裏「知恩院名号」	〔六字名号〕	一枚起請文（写）	一枚起請文 ※木版	
34	38	44	47	43	48	31	33	28	32	51	整理番号
天保2年3月11日									建曆2年正月23日	建曆2年正月23日	年 代
若州、小松原一宮龍道	素句（落款有り）		心蓮社聖徳若州大濱領小松原大光山僧 實譽龍道（朱にて花押）	徳本	徳本	徳本	総本山知恩院大僧正学天	空運	侶山本智歡（軸奥に常念寺住）	源空（裏面には所有者上ノ山氏の名有り）	作 成 者
											宛 名
卷子掛軸	掛軸	掛軸	掛軸	掛軸	掛軸	掛軸	掛軸	掛軸	卷子掛軸	形	態

② 絵 画

41	49	40	53	54	36	30	29	55	37	42	35	50
〔春日鹿曼荼羅〕 (無彩色)	〔当麻曼荼羅図〕 (無彩色)	〔雨宝童子像図〕 (彩色)	〔高僧画像〕 (彩色)	〔元祖円光大師像〕 (彩色)	〔空海画像〕 (彩色)	〔来迎図〕 (無彩色)	〔来迎図〕 (彩色)	〔积迦来迎図〕 (彩色)	〔积迦涅槃図〕 (彩色)	〔积迦三尊像図〕 (無彩色)	〔积迦像〕 (彩色)	〔梅窓剛近江聖人賛〕 ※端裏「近江聖人」、肖像画 (彩色) 有り
※童子神が乗っている、絵は木版・文は手書、端裏「十一月廿七日廿八日 春日様」	※木版、破損	※破損大、口絵3	※54と同人か？蓮華座・持数珠・光背有り・破損	※蓮華座・持数珠・光背有り	※破損	※木版、破損	※破損			※端裏「一光三尊」、木版	※端裏「仏画」	
41	49	40	53	54	36	30	29	55	37	42	35	50
掛 軸	掛 軸	掛 軸	掛 軸	掛 軸	掛 軸	掛 軸	軸 装	掛 軸	掛 軸	掛 軸	掛 軸	掛 軸
												麒麟庵 在貞薰沐 (写) (落款有り)

③ 典籍

9	8	7	6	5	4	3	2	1
釈迦御一代記図会 三	釈迦御一代記図会 二	釈迦御一代記図会 一	阿弥陀経和訓図会 下	阿弥陀経和訓図会 中	阿弥陀経和訓図会 上	往生要集 下 極楽物語 (天保再板)	往生要集 中 六道物語 (天保再板)	往生要集 上 地獄物語 (天保再板)
※木版	※木版	※木版	※木版	※木版	※木版	※木版	※木版	※木版
9	8	7	6	5	4	3	2	1
弘化2年4月	弘化2年4月	弘化2年4月	天保15年正月	天保15年正月	天保15年正月	天保14年3月	天保14年3月	天保14年3月
玉山堂・浪華岡田群玉堂 齋社老人(画) 東都稲田 山田意齋叟(参考) 前北	玉山堂・浪華岡田群玉堂 齋社老人(画) 東都稲田 山田意齋叟(参考) 前北	玉山堂・浪華岡田群玉堂 齋社老人(画) 東都稲田 山田意齋叟(参考) 前北	山田野亭(著) 松川半山 (画) 田中宋栄堂(発兌)	山田野亭(著) 松川半山 (画) 田中宋栄堂(発兌)	山田野亭(著) 松川半山 (画) 田中宋栄堂(発兌)	恵心僧都(著) 八田華堂 金彦(画工) 京都書林	恵心僧都(著) 八田華堂 金彦(画工) 京都書林	恵心僧都(著) 八田華堂 金彦(画工) 京都書林
徳(持主) 名草郡冬野村谷口	徳(持主) 名草郡冬野村谷口	徳(持主) 名草郡冬野村谷口	(持主) 事相□主	(持主) 事相□主	(持主) 事相□主			
和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本

39	46	52	45
[瀧・紅葉図] (彩色)	[白梅図] (彩色) ※絹本、虫損	[蓮と白鷺図] (彩色)	出雲大社之図 (無彩色) ※木版
39	46	52	45
鳳洋 (落款有り)	(「守信」の落款有り)	(落款有り)	
掛 軸	掛 軸	掛 軸	掛 軸

二、谷口家文書

① 典籍

12	11	10
釈迦御一代記図会 六	釈迦御一代記図会 五	釈迦御一代記図会 四
※木版	※木版	※木版
12	11	10
弘化2年4月	弘化2年4月	弘化2年4月
玉山堂・浪華岡田群玉堂 齋田老人(画) 東都稲田 山田意齋叟(参考) 前北 玉山堂・浪華岡田群玉堂	玉山堂・浪華岡田群玉堂 齋田老人(画) 東都稲田 山田意齋叟(参考) 前北 玉山堂・浪華岡田群玉堂	玉山堂・浪華岡田群玉堂 齋田老人(画) 東都稲田 山田意齋叟(参考) 前北 玉山堂・浪華岡田群玉堂
徳(持主) 名草郡冬野村谷口	徳(持主) 名草郡冬野村谷口	徳(持主) 名草郡冬野村谷口
和 本	和 本	和 本

21	20	19	18	17	16	15	14	13
四聲音訓 帝国明治玉編大全 (再版)	改正 大学・中庸	新刻改正 孟子 三(再刻後藤点)	新刻改正 孟子 二(再刻後藤点)	新刻改正 孟子 一(再刻後藤点)	新刻改正 中庸 全(再刻後藤点)	新刻改正 論語 二(再刻後藤点)	新刻改正 大学 全(林家正本再刻、再刻後藤点)	標題徐状元補蒙求巻上
※印刷、横半型	※木版、小型本	※14のシリーズ本、木版	※14のシリーズ本、木版	※14のシリーズ本、木版	※14のシリーズ本、木版	※14のシリーズ本、木版	※木版	※木版
21	20	19	18	17	16	15	14	13
明治32年11月								
片岡賢三(編) 風月庄左衛門(印刷・発行) 京都富小路通三条上ル 風祥堂中村浅吉(販売)							芝山後藤先生(定本) 男 師周校訂	(李翰(力))
和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本	和 本

26	25	24	27	23	22
再訂 中学修身教科書 卷五	再訂 中学修身教科書 卷一	中等教科 (中学校師範学校国語科用 再版) 明治文典 訂正卷之一	新案裁縫教授書 全(訂正再版)	孟子 鈔 全(中学校国語教科用)	孟子 鈔 全(中学校国語教科用)
※印刷	※印刷	※印刷	※印刷	※印刷、22に同じ	※印刷
26	25	24	27	23	22
明治43年3月6日	明治42年2月8日	明治40年2月10日	明治33年11月18日	明治45年2月12日	明治45年2月12日
井上哲次郎(著) 書籍株式会社(印刷・発行)	井上哲次郎(著) 書籍株式会社(印刷・発行)	芳賀矢一(著) 富山房(発行・印刷) 治因書株式会社(販売)	大村忠二郎(著) 松堂(発行)	野道明(校訂) 国語漢文研究会(編) (発行)	野道明(校訂) 国語漢文研究会(編) (発行)
	井上哲次郎(著) 和歌山徳義中学校	中井徳蔵(持主) 和歌山徳義中学校		郎(持主) 第五年級谷口幸太	
和本	和本	和本	和本	和本	和本

